

役場機能移転自治体住民の
「避難経験」と復旧・復興
— 檜葉町に注目して —

関礼子（立教大学）

本報告の概要

- 高い流動性（いわき→会津美里→いわき）
- 壊れた絆と結ばれる絆
- 第2原発再稼働に関する見解（以下、年表）
- 中間貯蔵施設と仮置き場
- 町長選挙と町政懇談会
- 復興計画（以下、資料）
- 警戒区域解除をめぐる見解

いわき市から会津美里町へ

- 1996旧新鶴村と姉妹都市協定
- 1997災害時相互応援協定

- 海の幸・山の幸を活かした交流
- 相互に顔の見える交流

一時避難先

- 構造改善センター 110人
- 新鶴体育館 19人
- 高田体育館 282人
- ふれあいセンターあやめ荘 213人
- 農業環境改善センター 186人
- 旧赤沢小学校 114人

二次避難所

- 新鶴温泉（会津美里）
- 芦ノ牧温泉（会津若松）
- 湯野上温泉（下郷）

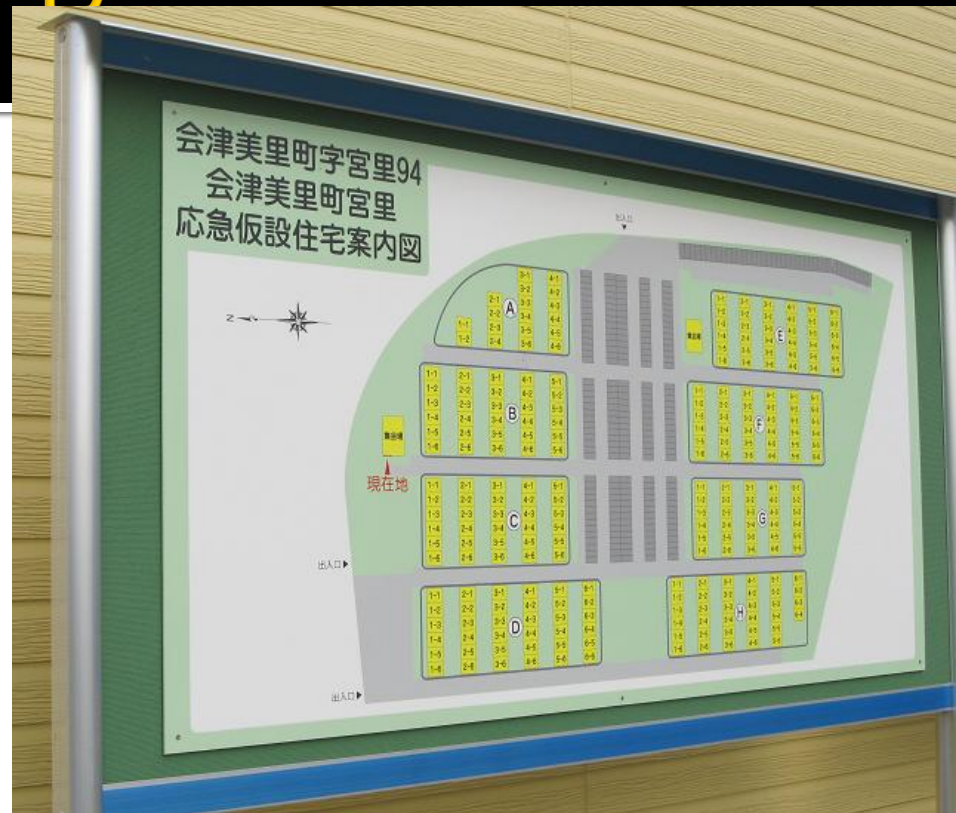


二次避難所

- 結ばれる絆
(町民アンケート)



会津美里仮設住宅



いわき市仮設住宅



小括 1

- 大規模広域災害時の避難者コミュニティは、それぞれの価値判断と生活戦略で流動性が高い。
- その場その場でコミュニティを生成することが、励みになるし、ストレスを緩和できる。
- 避難者だけでまとまるのとは異なり、受け入れ地域のなかに避難者がいる状況は、心理的にも身体的にも減災効果が高い。
- ボランティアが一面的・限定的なかかわりになりがちであるのに対し、比較的規模の小さな2次避難所や支援地域は日常生活で包括的なボランティアの役割を果たしてきたという側面がある。

小括2 (コミュニティ、家族)

- 大規模災害におけるコミュニティごとの避難の難しさ
(弱者優先の必要性とその問題点)
- 高い流動性のなかで、家族が分割されていく。(世代ごとの家族分割、夫と母子との分割、要支援・介護者)
- 仮設住宅は大家族を前提としていない。